モニターレポート（2月報告）

【報告内容①】

（阿賀野川ふれあい公園の）芝生内には、転々と20cmくらいの土が盛り上がっている箇所が見受けられたので何だろうと調べましたら、なんと「もぐら」が掘ったトンネルの土を地表に押し上げたものでした。

〈事務所からのコメント〉

阿賀野川ふれあい公園の芝生に、もぐらがいるというお話がありました。野生動物が住みつくのは仕方がないことなのですが、もぐらの場合は堤防に穴を開けるため、堤防の漏水や、堤防弱体化の原因になる恐れがあり、やっかいものです。しかし、もぐらは虫を食べることから、益獣であるという考え方もあり、一概に害獣とはいえません。また、やたらに駆除しますと、生態系への影響が考えられるため、むやみに駆除することには問題があります。当方としては、堤防の役割を維持するために、河川巡視などでもぐらの穴についても監視をし、補修を行います。

【報告内容②】

河川の近くで、船の持ち主なのかホームレスなのか、煮炊きをしている人がいました。たぶん、この寒さなのでホームレスではないと思いますが、漁師さんだと日常的なことなのでしょうか。まわりは雑草が多いので、火の不始末には気をつけてほしいです。

〈事務所からのコメント〉

河川敷で煮炊きをしている人がいるというお話がありました。ホームレスではないかというお話もありましたが、船の持ち主などが、煮炊きをしているものではないかと思われます。火事などを起こさないように、当方でも見つけた場合は、注意していきたいと思います。

※複数のモニター報告を要約してあります。

【報告内容③】

天候的には曇っていたため、雪山の美しい山容は見られませんでした。一面真っ白な山々は、何にも例えがたいのですが、残念です。川面にいるのは鴨ばかりで、そこに白鳥たちの姿はありませんでした。雪も消え、日中のこの時間帯ではおそらく付近の田んぼへでも出掛けているのでしょう。上空を数羽が飛んで移動しているのを見かけただけでした。やはり帰路、道路両側の横越、亀田地区の田んぼでえさを求めて活動している白鳥たちの集団を見ました。数十羽ずつで行動しているのでしょうか。多くの白鳥たちを見ました。

例年ですと、2月20日を迎える頃より北帰し始めるようですが、今年は寒かったせいか、遅れているのでしょうか。いずれにしても、新潟での越冬も終わりに近づいていることでしょう。美味しいコシヒカリの穂をたっぷりと食べて、鋭気を養って無事にシベリヤの地に帰って行って欲しいものです。

〈事務所からのコメント〉

白鳥のお話がありました。1月は一面積雪があったため、白鳥はえさを食べることができず、河川敷の田圃や川の中でじっとしていました。2月になり、雪が融けて地面が出てくるとともに、白鳥はえさを求めて河川敷の田圃などに集まってきます。今では、白鳥がえさをついばんでいる姿を見ることができます。シベリヤの地に帰る前の補給といったところかと思われます。

※複数のモニター報告を要約してあります。